

取れたてキャベツ 甘い！

横手北小児童 横手やきそば具材収穫



横手北小学校の3年生約70人が8月29日、同市金沢中野の学校農園でキャベツの収穫を体験した。取れたてをその場で頬張り「横手やきそばに入りたい」「甘くておいしい」などと笑顔を見せた。横手やきそばの具材となるキャベツ栽培を通じ郷土愛を育んでもらおうと、市民団体「横手やきそばサンライ‘S(ズ)’」が2012年度から企画している。

子どもたちは地元農家の手ほどきを受け、6月に植えたキャベツを包丁で切り取った。初めはおぼつかない手つきだったが、慣れると2個、3個と次々に収穫した。今年は小雨の影響でやや小ぶりの出来栄だったが、取れたてを口にした子どもたちは「みずみずしい」「甘いところと辛いところがある」などと話した。

阿部心洗さん(9)は「キャベツは甘いところが好き」、鈴木葵葉さん(9)は「シャキシャキしておいしい」とそれぞれ話し、「大好きな横手やきそばに入れて食べたい」と声をそろえた。

子どもたちは各1、2個のキャベツを持ち帰った。横手やきそばの試食会は後日開かれる予定。(梅川正城)

(令和7年9月2日(火)秋田魁新聞より一部抜粋)